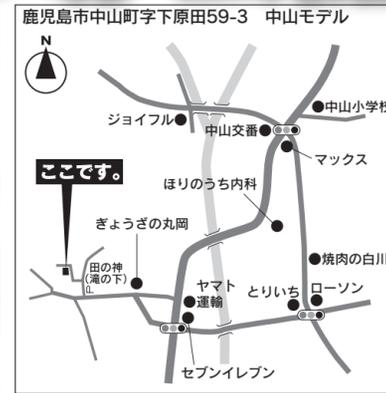


ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013・スペックの展示場

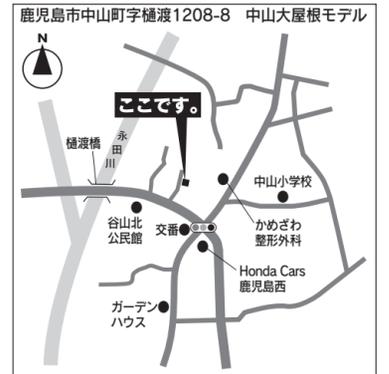
中山展示場 公開中!



本展示場は【ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013】大賞受賞スペックを参考にして造った展示場です。暖冷房はエアコンだけという最もシンプルな構成で住宅性能の良さだけで、省エネルギーを目指した展示場です。これから逼迫が予測されるエネルギー事情を見据えた高性能展示場です。下記「平屋感覚の展示場」のすぐ近くですから、両方を同時にご見学下さいませことをお勧め致します。下記展示場は太陽光発電搭載の「ネット・ゼロ・エネルギー」住宅です。

平屋感覚の中山展示場 公開中!

鹿児島における家づくりへのこだわりから生まれた住まい。



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013・スペックの展示場

川内展示場 公開中!



本展示場は【ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013】大賞受賞のスペック通りに造った展示場です。エアコン一台程度で冬も夏も快適な暖冷房を可能とした省エネルギー、超高性能住宅です。鹿児島県に相応しい期間蒸暑地域対応型住宅として、全国的に評価された工法です。夏と中間期にご見学された方は、これから始まる冬の暖房環境について体感して下さい。設備は少なければ少ないほど、更新に必要な資金は少なくなります。

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089

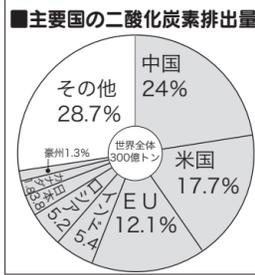
ひこうき雲

石炭火力では、温暖化は止められないと石炭発電を進める日本の立場に非難が集中!

日本は交渉の足を引っ張る国としてNGOが批判を込め『化石賞』授与。

COP20 脱石炭で日本の立場、微妙!

排出量、2大国の米・中 主導で脱石炭で一致。



世界の潮流に逆行する 我が国の温暖化対策!

ペルーのリマで開催された第20回国連気候変動枠組条約締結国会議(COP20)は、今までの交渉とは様変わりし、排出量の2大国である、米国と中国の主導で一応の前進を見る事となりました。

米中の排出削減策の要は二酸化炭素の排出が多い石炭火力発電の抑制で、中国もまた第12次5カ年計画で石炭火力発電の抑制と再生可能エネルギーの拡大を打ち出し、米国ではシェール革命による天然ガスや石油の生産が急増し、脱石炭政策が進んでおり両大国の思惑が一致し、今までは全く異なる対応を示す事となったようです。

原産の再稼働を早めたいにもかかわらず、再稼働の見直しは全くたつておらず、再生可能エネルギーにも、送電や変電設備の対応が出来ないためにストンプを掛けざるを得ない我が国は、世界から見ても非常に微妙な立場で、地球温暖化対策として日本政府が途上国の石炭火力発電所の建設を支援する方針に、脱石炭に逆行する流れとして国際的な批判の音が上がっています。

リマのCOP20の会場で、世界のNGO950を超える団体が参加する「気候行動ネットワーク」は大きな失望と共に日本政府を批判し、化石賞を贈りました。授賞理由は「日本が支援し、インドネシアに建設する石炭火力発電所に拠出した約10億ドル(約1200億円)が、日本の温暖化対策を目的とする基金から出たため」として、日本政府の立場は「石炭火力発電でも、エネルギー効率が高ければ温室効果ガス排出量を減らす取り組みになる」と言う理屈ですが、これは国内で原発から新設の石炭火力に頼っている我が国の現状を代弁する理屈で、発電に伴う石炭火力の二酸化炭素排出量は、高効率の石炭火力でも液化天然ガス火力の倍に上るが現実です。

れば温室効果ガス排出量を減らす取り組みになる」と言う理屈ですが、これは国内で原発から新設の石炭火力に頼っている我が国の現状を代弁する理屈で、発電に伴う石炭火力の二酸化炭素排出量は、高効率の石炭火力でも液化天然ガス火力の倍に上るが現実です。

「リブプロック」(英語でカエル跳びの意味)型の発展を呼びかけている削減先進国の立場であり、「リブプロック」は途上国が、化石燃料に頼ることなく、再生エネなどの導入で一足飛びに低炭素社会に向かう概念であることから、全く逆行していると思えられているのです。しかも、最大の排出国である米・中も脱石炭火力を宣言している中で、日本だけが石炭火力に戻るといって、逆行した考え方が問題視されているわけです。

「化石賞」受賞となつていす。現在、国内で建設中や計画中の石炭火力が17基に上ることが明らかになっており、環境NGOの試算では、全基が稼働すると、現状に比べ、最大で年間5000万トンの二酸化炭素の増が積算されています。さらに、2016年度の電力小売り全面自由化で、原則的に環境アセスメントが不要となる設備容量が15万キロワット未満の新設で電力事業への新規参入の動きも目立ちます。環境NGO「気候ネットワーク」は、少なくとも16基(15万キロワット未満)の建設準備が進んでいるというのです。

▼ツルバラの花が可憐に咲いていました。季節外れのこの花に誰も見向きもしないでしょうが、花は小さくても中々気品のある花が一輪咲いていました。年の瀬の花はツバキやサザンカで路傍に咲いているツルバラの一輪の花に目を奪われます。ツバキやサザンカは、ツバキ科の花でバラとは関係のない花ですが、ツバキは照葉樹林帯の花で、バラは北半球の温帯域に広く自生し、チベットの周囲や中国の雲南省が原産地です。南半球にはバラの花は自生していません。原産地から考えれば、ツルバラは案外寒さに強い花なのかも知れません。



赤トンボ

▼消費税軽減とも言われ、大儀のない解散と散々、こき下ろされていましたが、衆議院選は自民党の圧倒的な勝利で終了しました。消費税は2年半先送りされましたが、今度は待ったなしの消費税10%時代が到来し、将来の20%時代も視野に入ればならぬと言っているのです。住宅産業の未来については、2年間の消費税の執行猶予がどの様な影響を与えるのか予断を許さない状況です。しかしながら、消費税の先延ばしで2年半の間に住宅を建てる事は確実に有利です。この際、ご検討がお手早い致します。